

## 第 42 期第 12 回理事会議事録

日時：2023 年 12 月 15 日（金） 13 時 00 分～17 時 00 分

会場：気象庁本庁会議室 4（11 階）（Web 会議方式）

出席理事：佐藤薫，橋田俊彦，青柳暁典，荒川知子，池上雅明，稲津將，齋藤篤思，佐藤正樹，高谷康太郎，竹見哲也，竹村俊彦，坪木和久、中村尚，橋本明弘，早坂忠裕，堀之内武，渡部雅浩，以上 17 名（理事数現在 20 名）

欠席理事：植田宏昭，榎本剛，三好建正

出席監事：鈴木靖，吉田聡

### 議題

#### 1. 協議事項

##### 1) 会員の新規加入について

新入会員 19，退会 10 を全会一致で承認した。2023 年 12 月 13 日現在，会員数 3,487 名で個人会員は 3,297 名。

##### 2) 第 42 期第 11 回理事会議事録の確認

議事録案について，全会一致で承認した。

#### 2. 報告事項

##### 1) WG からの報告

①「天気」と関連する会員サービスの検討 WG・・・以下の内容が報告された。

- ・冊子体廃止について 2024 年以降も冊子が必要な方について確認を実施中。
- ・1 月号に会員向けアナウンス記事を掲載し，周知メールを発信する。

②大会のあり方 WG・・・以下の内容が報告された。

- ・11 月 14 日に第 1 回会合を開催。
- ・12 月 22 日に第 2 回、1 月 19 日に第 3 回会合を予定。2 月 2 日理事会で改革案を報告予定。
- ・春季と秋季をセットで考える。春季大会と JpGU の関係と影響を考慮して検討中。

##### 2) 業務執行理事の報告

庶務担当理事・・・以下の内容が報告された。

- ・掲載許可

①申請者：北海道新聞みらい教育推進室企画グループ

【転載元】：日本気象学会機関紙「天気」（2023 年）第 70 巻第 9 号，439 ページ

タイトル：本だな「菅井貴子と学ぶ 北海道の天気と防災」稲津將著

【転載先】：北海道新聞社内報「出版センター報」11 月 15 日発行号

②申請者：竹見哲也

【転載元】：Unuma, T., and T. Takemi, 2016: A role of environmental shear on the organization mode of quasi-stationary convective clusters during the warm season in Japan. SOLA, 12, 111-115. <https://doi.org/10.2151/sola.2016-025> に掲載の Figure 3 および Figure 5

【転載先】：書籍名：“Severe Storms: Anatomy, Early Warning Systems and Aftermath in Changing Climate Scenarios” (Editors: Someshwar Das and Wei-Kuo Tao)

出版社：The Center for Science and Technology of the Non-aligned and Other Developing Countries (NAM S&T Centre)

Core 6A, 2<sup>nd</sup> Floor, India Habitat Centre, Lodhi Road, New Delhi, 110003, India

・後援名義等使用依頼受付

①名称：第28回風工学シンポジウム

主催：一般社団法人日本風工学会

共催：公益社団法人土木学会、公益社団法人日本気象学会、一般社団法人日本建築学会、一般社団法人日本鋼構造協会

期日：2024年12月2～4日（予定）

会場：東京都内

名義：共催

②名称：原子力総合シンポジウム2023

主催：日本学術会議（幹事学会 一般社団法人日本原子力学会）

期日：2024年1月22日

会場：日本学術会議講堂（東京都港区）およびオンライン

名義：後援

③名称：第29回計算工学講演会

主催：一般社団法人 日本計算工学学会

期日：2024年6月10～12日

場所：神戸国際会議場（兵庫県神戸市）

名義：協賛

④名称：第38回北方圏国際シンポジウムーオホーツク海と流水ー

主催：紋別市

期日：2024年2月18日～21日

場所：紋別市文化会館，紋別市立博物館，紋別市民会館他

名義：後援

・寄付者リスト（2023.10.6～2023.12.14）なし

会計担当執行理事・・・以下の内容が報告された。

・2023年9月，10月，11月分の収支及び現預金検査報告

・流動資金（運転資金）の月毎の推移。気象集誌に対する補助金が無くなったことと投稿数減少のため昨年と比べて400万円少なく、苦しい状況。

・第35回日本気象学会夏期特別セミナー実施報告

・研究連絡会等補助金申請

第14回気象学史研究連絡会開催

第3回気候形成・変動機構研究連絡会開催

3) 委員会報告

企画調整・・・以下の内容が報告された。

・特定寄付について、クレジットカード払いや Web ページの検討を進めている。

講演企画・・・以下の内容が報告された。

・2023 年度秋季大会講演者数、大会報告、アンケート結果ではポスターをオンラインから対面に変更希望が多数。口頭発表者多数で発表時間が短くなる対処希望あり。

・2024 年度春季大会、専門分科会なし。

・JpGU2024 学協会共催セッション 20 件は昨年度 14 件から増加。

天気編集・・・以下の内容が報告された。

・Vol. 70 No. 10, 11, 12, Vol. 71 No. 1 (2023 年 10, 11, 12 月 2024 年 1 月) の掲載記事と、Vol. 71 No. 2 (2024 年 2 月) の予定記事

気象集誌編集・・・以下の内容が報告された。

・Vol. 101 No.6 (2023 年 12 月) の掲載論文と Vol. 102 No.1 (2024 年 1 月) の掲載予定論文。審査中の論文リスト

・気象集誌論文賞について、2 編を決定。

・気象集誌/SOLA の Springer/Nature 移行について。背景として JMSJ/SOLA とともに受理後の編集作業に多くの研究者の労力が割かれている状況は持続可能でない。投稿システムを Scholar One から Springer/Nature システムに移行することで受理から出版が JMSJ は 130 日から 10 日に、SOLA は 60 日から 10 日に大幅短縮する見込み。他に文献データベースへの登録の迅速化等のメリットがある。デメリットとして APC が年率 3-7% で増加する。JMSJ は 2025 年 1 月投稿分から、SOLA は 2025 年 9 月投稿分から移行としたい。

以下の意見があった。

・海外出版社に移行した他学会が失敗したとの情報があるため、慎重に検討頂きたい。

・APC の増加率が 7%だとすると 16 年後には APC は 2.95 倍となる計算。APC を払えない会員が多く出てくるのではないか。

・データ部会からの意見として、JSTAGE2 は国策でやってきており応援する必要がある。今海外出版社に依頼するのは適当ではない。非常に重要な問題であるのでデータサイエンスに明るい方を理事会に呼んで説明してもらおう予定。会員のジャーナルであるからデータ部会をはじめ会員にきちんと理解していただく必要がある。

・日本に JSTAGE があることは良いことで少々の苦勞であれば受け入れるがあまりにも海外との差が大きく耐えられない状況を理解して欲しい。

SOLA 編集・・・以下の内容が報告された。

・論文の投稿・公開状況

・特別号企画 JMSJ・SOLA 合同特別号「高性能スーパーコンピュータを用いた最新の大気科学の進展」(Vol. 19A, 20A) SOLA 特別号「豪雨をもたらす停滞性降水系一線状降水帯一研究の新展開」(Vol. 20B)

・2023 年 9~10 月の掲載論文：10 編

・論文賞の検討を開始した。1 月にかけて審査する。

・採択率は 5 割程度。品質を確保するため割合を上げるのは難しい。

気象研究ノート編集・・・以下の内容が報告された。

・248 号「メソスケール拡散シミュレーション」が 10 月 19 日刊行。

・学術会議から、今後の原発事故の可能性を意図した訓練で予測の情報を活用すべきとの提言が出ており、気象学会から最新の状況を踏まえた研究ノートを出せたことは良かった。  
松野賞・・・以下の内容が報告された。

- ・2023年秋季大会の口頭とポスター発表合わせて109名のエントリー。厳正な審査の結果24名に授与。
- ・松野賞は少し頑張ったら取れる賞という位置づけにする。山本賞の前のステップと位置付ける。

部外表彰等・・・以下の内容が報告された。

- ・応募済の表彰等
- ・募集中の表彰はなし。

名誉会員推薦・・・以下の内容が報告された。

- ・4名を推薦した。
- ・総会における名誉会員の投票をまとめてではなく一人ひとりとすることについて、全会一致で承認された。

学術・・・以下の内容が報告された。

- ・11月29日に委員会を開催した。
- ・2023年度の出版を目標とした「日本の気象学会の現状と展望」の作業を進めている。

気象災害・・・以下の内容が報告された。

- ・3月25日に防災学術連携シンポジウム防災学術連携体第18回「人口減少社会と防災減災」がオンライン開催される。

教育と普及・・・以下の内容が報告された。

- ・公開気象講演会が11月19日「日本海側の大雪とJPCZ」をテーマにオンライン開催。参加者約300名。
- ・気象サイエンスカフェ第13回つくばを10月29日「映像で見る雷の世界」をテーマにみなと科学館とオンライン併用で開催。現地10名オンライン約100名。第58回東京を2月4日「線状降水帯」をテーマにみなと科学館オンライン併用で開催予定。
- ・2023年度先生のための気象教育セミナーを2024年1月7日みなと科学館で「雪や氷の造形を楽しもう」をテーマに実施予定。
- ・ジュニアセッションを5月25日午後開催決定。申し込み締切は2024年4月9日
- ・サイエンスカフェについて、オンラインは賑わっているが対面開催は不調である。また、サイエンスカフェはコロナ感染症の影響で飲食ができず単なる講演会になっている。

国際学術交流・・・以下の内容が報告された。

- ・2023年10月24～25日、仙台国際センターにおいて第3回小倉特別講義と連携セッションを開催した報告。天気にも掲載する。
- ・第4回の小倉特別講義は2024年秋季大会（つくば）で開催予定。アンケート結果を参考に委員会で議論し講師には気候変動研究分野からClara Deser博士（NCAR）を予定。
- ・2024年秋に日中韓第4回ACMを日本がホストし、秋季大会の直後に実施。A3 foresight 日中韓交流事業と連携して予算補助を頂く。ACMのための学会の積立金を国内の宿泊費補助等に活用することについて全会一致で承認された。積立金をレセプションに使用可能かに

については事務局で確認する.

- ・国際学術研究集会出席補助金申請1件の承認

人材育成・男女共同参画・・・以下の内容が報告された.

- ・倫理規程の修正について、前回理事会とその後の委員会の議論を経て修正が確定した. 修正後の周知も行う.

- ・男女共同参画学協会連絡会に出席した. 2023年11月で正式加盟学協会数が108と54から倍増した(オブザーバからの移行による). 気象学会の正式加盟の判断は2025年11月.

以下の意見があった.

- ・正式加盟すると事務局が回ってくる可能性があり, 耐えられるか不安である.

広報委員会・・・以下の内容が報告された.

#### 4) 理事長報告

なし

#### 5) その他

- ①コンベンションリンケージからの最終報告・・・以下の内容が報告された.

- ・労務実態
- ・会員動向・財務状況と課題
- ・学会運営に関する提案(若手の参画・育成, 大会運営, 無償労務の軽減化, 包括的な財務状況の改善, 産業との連携, 運営の透明化)

以下の意見があった.

- ・質問の機会が欲しい.
- ・報告に感謝する. 結果の活用について検討を行い, 年度内に方向性を決めたい.
- ・非常に大きな改革の決断になる. 期限を設けて議論をしていきたい.

- ②役員候補者選挙管理委員会からの報告(役員候補者選挙実施要領の一部改正)

- ・電磁的投票を可能とする改正について報告された.

以下の意見があった.

- ・電磁的投票は進むべき方向であり, その方が投票率もあがる.

以上について、議事録を作成し、理事長および監事が記名押印する.

2024年2月2日

公益社団法人日本気象学会

理事長 佐藤 薫

監事 鈴木 靖

監事 吉田 聡